

中国、2017年GDP6.9%成長で、原油・LNG等の輸入が大幅拡大

1月18日、中国国家统计局は2017年の中国の実質経済成長率が6.9%であったと発表した。7%の大台には届かなかったが、6.5%程度とされる政府の成長目標を上回った。中国経済は、リーマンショック後の「4兆元経済対策」の効果もあって、2010年には10.6%成長と、前年を上回る成長を達成したが、その後は毎年連続して成長率が低下してきた。2017年の6.9%成長は、7年ぶりに成長率が前年水準を上回る結果となった。

この成長率回復の背景の一つには、世界経済全体が好調で、2016年は7.7%減であった中国の輸出が2017年は7.9%増となったことがある。米国・欧州など、主要な貿易パートナー向けの輸出が拡大し景気を牽引した。加えて、2017年は国内インフラ投資が拡大するなど、国内景気刺激策の効果があつたことも見逃せない。これは、同年10月に共産党大会が開催され、そこで習近平体制をさらに強化・確固たるものとしていくために、景気下支え・浮揚が極めて重要であり、いわば政治的なニーズから取られた成長拡大・促進政策が景気押し上げ効果を発揮したのである。

米国に次ぐ、世界第2位の経済大国である中国の経済成長が加速することの影響は大きい。その余波は、国際エネルギー貿易を通じて、世界のエネルギー市場の需給環境全体にも無視し得ないインパクトを及ぼすものである。

まず、原油市場においては、景気拡大の下で、自動車販売や利用も増大傾向を示し、石油需要そのものが底堅い増加を示した。IEAの月次石油市場報告(2017年12月)では、中国の2017年の石油需要は前年比59万B/D(5.0%)増加し、1,244万B/Dに達すると分析している。他方、2014年後半以降の原油価格低下もあって、中国の同年の石油生産は前年比13万B/D減の386万B/Dに低下すると見込まれている。景気拡大による需要増と国内石油生産低下の相乗効果によって、輸入大幅拡大がもたらされた。中国貿易統計によると、2017年の原油輸入量は前年比10.1%増加し、4億1,957万トン(約843万B/D)に達したとされる。ちなみに、輸入量の大幅拡大とともに、原油価格が前年比で上昇したため、原油輸入額は前年比42.7%増となり、総輸入額の8.8%を占めたという。

2017年秋以降の原油価格上昇局面には、中東での地政学リスク、リビアやベネズエラでの生産減少、石油先物市場へのマネー流入など様々な要因が影響しているが、重要な基底要因として、石油在庫の低下に象徴される需給環境の改善がある。需給改善の主要因としては石油需要の拡大があり、間違いなく中国の需要および輸入拡大がそこで大きな役割を果たしたと言えるだろう。

中国での輸入拡大は、原油についてだけでなく、むしろ天然ガス・LNG輸入の拡大の勢いはさらに著しいものであった。税関統計の速報によると、2017年の中国の天然ガス輸入量(パイプライン輸入とLNG輸入の合計)は、前年比27%も増加し、6,857万トンに達した。そのうち、パイプライン輸入も10%前後の堅調な拡大を示したが、LNG輸入は前年比で5割程度の劇的拡大を示したとされる。業界専門誌のデータでは、2017年の中国のLNG輸入は前年比48%増、3,789万トンとなり、韓国を抜いて、日本に次ぐ世界第2位のLNG

輸入国となった。

中国は、2006年に始めてLNG輸入を開始したが、それから10年余りで、世界有数のLNG輸入大国となり、国際LNG市場を左右するプレイヤーとなった。2017年の輸入の急激な拡大は、さらに中国のLNG市場におけるプレゼンスを高める結果をもたらしている。また、中国は従来、トルクメニスタン等からのパイプライン経由での天然ガス輸入が輸入の主体であり続けてきた。2017年には、初めてLNG輸入がパイプライン輸入を上回り、輸入の中心となったことも特筆すべきであろう。

なぜ、かように急激・大幅に天然ガス、とりわけLNG輸入が拡大したのか。その背景には幾つかの複合的な要因がある。もちろん、もっとも基本的な要因として、経済成長の加速を挙げなければならない。景気の拡大やインフラ投資、そしてその下での全般的産業活動活発化と特にエネルギー多消費産業の活性化はエネルギー需要そのものの増大をもたらし、それが天然ガス需要拡大に結びついたといえる。しかし、それに加えて、深刻な大気汚染対策として、エネルギー供給面で現在の大宗を占める石炭から、よりクリーンなエネルギーとしての天然ガスへのシフトが政策的に推し進められていることの効果が大きい。大気汚染対策は、習近平指導部にとって、喫緊の重要課題であり、天然ガスの利用促進は重要なエネルギー政策でのプライオリティである。

そこで、その天然ガス需要の拡大を賄う供給面を見ると、国内生産は緩やかな伸びにとどまり、パイプライン輸入も長期契約等の特性から需要に応じた柔軟で急速な拡大を求めるには不向きな面がある。他方、LNGについては、現在の国際LNG市場が供給過剰の状況にあり、豊富な供給力に裏打ちされていること、また、短・中期そしてスポットLNG供給の割合が拡大し、市場としての柔軟性が増していること、等の特徴のため、中国における需要拡大に即応して2017年には輸入が大きく拡大したと考えられるのである。特に、年末にかけては、寒波の襲来もあって天然ガス需要が拡大、国内では「ガス不足」といわれるような状況も現出し、その中で、2017年12月のLNG輸入は500万トンを超え、LNG輸入開始以来の最高値を記録した。

国際LNG市場全体は、いまだ供給過剰の中にあるが、世界2位の規模となった中国の輸入のさらなる拡大は、その速度・規模次第で、全体の需給バランスの方向性や市場プレイヤーの「需給感」に大きな影響を及ぼしていくこと必至である。また、現実の問題として、中国のLNG輸入が急増する中、市場の需給状況を反映するLNGスポット価格が2017年中央の100万BTU当り5ドル台から、年末には10ドルを突破するまで急上昇するなど市場・価格の大きな変動が見られた。その意味でも、今後の中国のLNG輸入動向は世界の注目の的であり続けよう。

原油・天然ガス・LNG等の需要や輸入には、前述したとおり、エネルギー・環境政策による影響、寒波等の気温要因など、様々なファクターが影響を及ぼし続ける。しかし、繰り返しになるが、やはり基本要因としての経済成長の影響は大きい。その点、2017年には6.9%成長を達成した中国経済だが、2018年以降のパフォーマンスにも大いに注目すべきである。「政治的ニーズ」による景気挺入れ効果は、2018年以降は期待できないかもしれない。また、企業や個人の債務比率上昇が懸念されるなど、金融的なリスクの存在も決して無視できない。世界経済や国際エネルギー市場の先行きを考える上で、中国経済の今後と、それによるエネルギー需要・輸入への影響から目を離すことはできないであろう。

以上